

# 人間じんかんにう生まれて "つないがりを生きよう" 309

普通のひかりには影が出来ます。

だけれども阿弥陀さんのひかりは碍(さまた)げられないひかりです。

どんな暗いところにあっても届くひかりです

石川正穂さん 聞法会から

今年の春は一斉に花が咲いたとの声がよく聞かれました。例年より早い桜の開花からチューリップ、牡丹など花に包まれています。

それぞれの花がそれぞれの色や光を出して私たちの心を和ませているようです。

聞法会で石川さんがひかりのことに触られました。四月二十日に日食がありました。が、太陽の光でさえ月によってさまたげられ暗くなりました。(昨年秋はその月が地球の

影によって暗くなる月食がありました)しかし佛さまの光は何ものにもさまたげられることなく私たちの所まで届いているそのことを親鸞聖人は「無礙の光明」とおっしゃったのでしよう。

四月一日は、毎年行われている春の法要の中継をしました。慶讃法要期間と重なり、本山には沢山のお参りがありました。

三日正信偈の会は、四人で同朋新聞の輪読座談をしました。気になったことを話しあう場になっています。気軽に越して下さい。

## 5月真敬寺行事予定

7日(日)日曜学校 午後1時半  
花まつり灌仏会 白象行進 参加  
福光町五宝町 知源寺さん

8日(月)正信偈の会 午後1時半

14日(日)定例聞法会  
法話 午前 住職  
午後 藤 共生さん

四月四日は蓮の植え替えを行いました。毎年のごことで少しずつ慣れてきたように思います。が九鉢もあつたのであとから腰にきました。

四月九日、二三日は日曜学校に新たな年度を迎え、スタッフも代わり一新しています。

四月一五日一六日は慶讃法要の団体参拝で音楽法要等に感動してきました。

定例聞法会の聞書

## 立教開宗の意義

### 「総序」を読み解く

石川正穂(いしかわまさほ)さん

富山市水橋



「総序」は『教行信証』の序分(文章の最初に出てくる文章)です。

『教行信証』にも「坂東本」とか「西本願寺本」とか、親鸞聖人がじかに書いたものとか、または他の人が書写し

たものとか、残っているものには色々ありますが、今お見せしている複製本は「坂東本」と言ひまして、親鸞聖人の直筆なんです。けれども、火災に遭っているんですね。大正時代の関東大震災の時に金庫の中に保管されていたのですが、奇跡的に残ったのです。表紙あたりは少し燃えています。紙の質も良かったのか、他のところは残っています。

「総序」の文は、「坂東本」ではかなり焼けていますが、燃え残った部分と他の本を参考にして書かれました。

『教行信証』は800年ほど前に書かれたものですが、すつごく長いんです。すべて漢文で書かれています。私たちにとってなじみがあるのは、「行の巻」にある「正信偈」です。何回も書き直しておられます。

「獲ぎやく信しん見けん敬きやう大だい慶けい喜き」の横に何度

も書き直しておられるところが残っています。親鸞聖人が悩みながら書かれたことが伺えます。この実物は今年、京都国立博物館で見られます。本山では現在親鸞聖人誕生850年と、教行信証が書かれて(立教開宗)800年の慶讃法要が行われています。

今回お話しする「総序」はなかなか難しいのですけれども私なりに読んだところを話させていただきます。

早速「総序」の内容になります。どこで文章が切れるとか、段落が変わるとかそれぞれの書写本で違いがあります。読み方も色々あるのですね。赤い正信偈の本(赤本)の本文三行が「総序」の一段目にあたります。漢文ですから現代人の私たちのなかなか読みにくいです、そこでの高山別院から出されております。

の白い本は、赤本と同じページになっ  
ていて、下に現代語が書かれています。  
す。

「心静かに阿弥陀如来の御意を  
推しはかり、思いを巡らしてみます  
と、私たちの考えおよばないその誓い  
は、迷いの海を渡ることが難しい私た  
ちを浄土へ渡す大きな船であり、何  
ものにも碍げられないその智慧の光  
は、真実に暗いわたしたちの暗い闇を  
破る恵みの太陽です。」

読んでもわからないことが多いので  
すが、『仏説無量寿経』という経典を  
ヒントにその内容が書かれていると  
言われています。

浄土真宗のお経には三部経と言  
まして、三つ大事なお経があります、  
総序は一段目が『仏説無量寿経(大  
経)』、二段落目は『観無量寿経(観  
経)』、三段落は『阿弥陀経(小経)』の

内容にあたります。

『大経』は法蔵菩薩の物語から書き  
はじめられます。正信偈の始めの所に  
「法蔵菩薩因位時」とあります。

昔々法蔵と言われる方がおられま  
してあらゆる人々を救いたい、いろん  
な悩み苦しみに四苦八苦している生  
きとし活ける人々を救いたい、と願  
いを起こされまして、先生である世自  
在王仏のところでの方法の一つを  
得られました。浄土という国を作り、  
みんなその国に生まれることが出来  
るように「我が名を称えたものを必ず  
その国に生まれさせよう」という方法  
です。

そして法蔵菩薩は阿弥陀という仏  
になられて浄土が出来ました。

「総序」では、「本願」を「私たちの考  
えることが出来ないような広い誓い  
は、渡りがたい、あらしや大きなうね

りの海(難度海)を渡してくれる大き  
な船」と表現しておられます。



そして「光明」は浄土真宗の教えの  
特徴です。光の佛さまが阿弥陀如来  
であることが、『正信偈』の始めに  
「普放無量無辺光」と続けられていま  
す。阿弥陀如来の光が十二の光とし  
て表現され、特にここでは「無礙光」  
と表現されています。普通の光は影  
が出来ます、だけれども阿弥陀様の  
光は何ものにも障げられない、どんな  
に暗いところにおいても影にいても届く  
ひかりです。辛い辛い状況にあつて  
も、阿弥陀さんの光は必ずその人の  
ところにちゃんと届いているのです。

それが形(すがた)になると「南無阿弥陀仏」という声になって届くので、

「無礙の光明は無明の闇を破る」と表現されているのだと思います。

『総序』の始めの三行で浄土真宗の大事などころの「本願」と「光明」と言うことがお書きえられているのです。

次の行からは『観無量寿経』のことが書かれています。ある国の家庭内のドロドロした事情が書かれているのです。

お話の続きはYou Tubeで見られます。QRコードを読み取って下さい。皆様のご感想を聞かせていただければと思います。



### 先月の行事から

1日(月)春の法要中継

3日(月)正信偈の会

4日(火)蓮植え替え

9日(日)日曜学校

15日から16日慶讃法要団体参拝

17日(火)定例聞法会 香華会

法話 午前 住職

午後 石川正穂さん

23日(日)日曜学校 午前9時



日曜学校の様子

4月から寺の仕事に専念することとなりました。月忌参り(見習いですが)や境内の手入れなど、いろいろとすることがあるなあと感じています。また、前坊守から引き継いで日曜学校を行っています。元気いっぱい小学生と過ごすのはとても楽しい時間です。地域の子供たちの思い出となる活動をしたと思うています。

これから門徒のみなさんとお話できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈坊守より〉



発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

ホームページを開設しました

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692